

ひとひと
令和元年度あさか女と男セミナー報告書

らく いき らく ぞ
楽 生 楽 座

～自分らしく生きる～

第3回

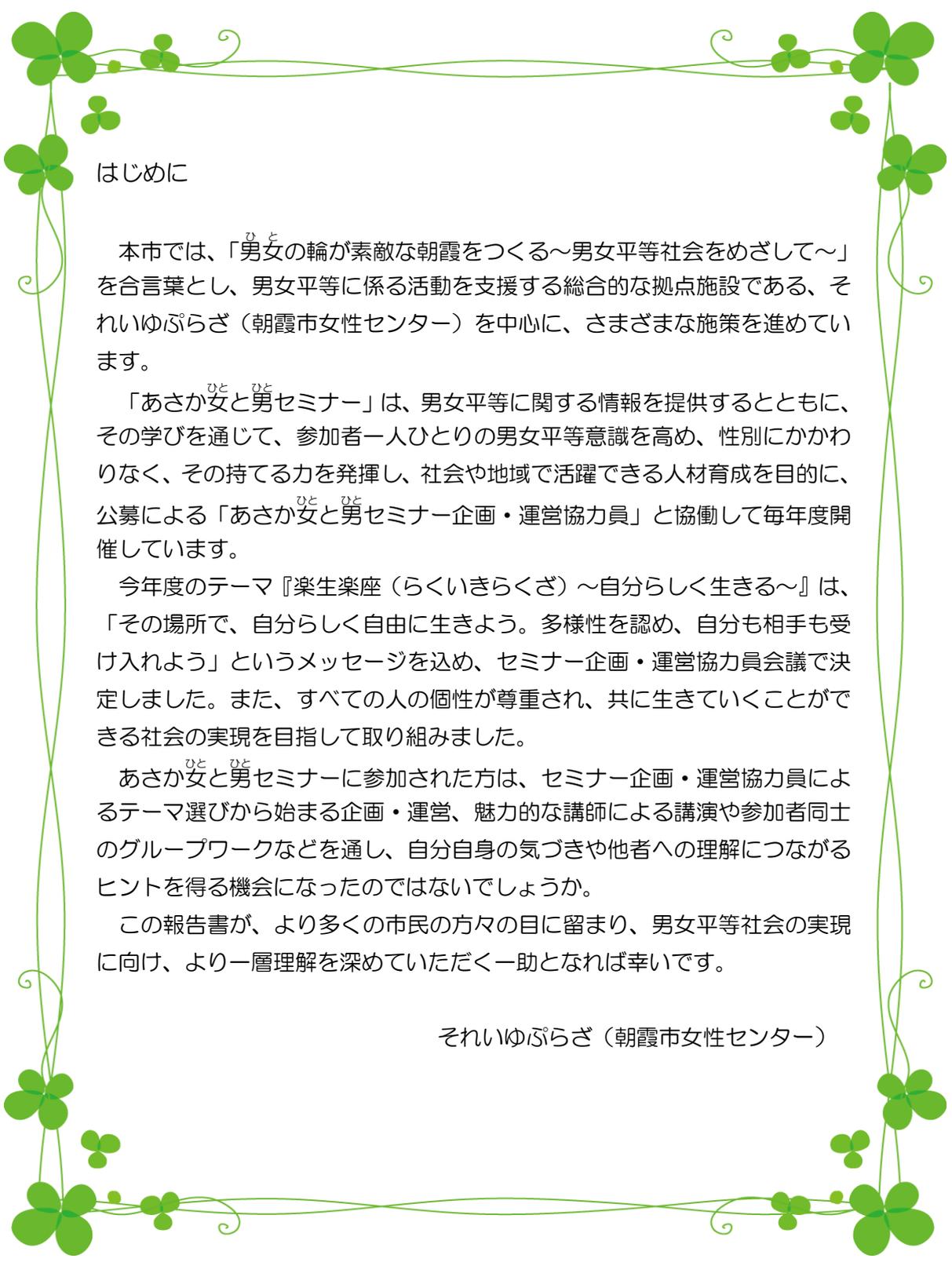


©むさしのフロントあさか

主催／朝霞市

ひとひと

企画・運営／あさか女と男セミナー企画・運営協力員



はじめに

本市では、「^{ひと}男女の輪が素敵な朝霞をつくる～男女平等社会をめざして～」を合言葉とし、男女平等に係る活動を支援する総合的な拠点施設である、それいゆぷらざ（朝霞市女性センター）を中心に、さまざまな施策を進めています。

「あさか女と男^{ひと}セミナー」は、男女平等に関する情報を提供するとともに、その学びを通じて、参加者一人ひとりの男女平等意識を高め、性別にかかわらず、その持てる力を発揮し、社会や地域で活躍できる人材育成を目的に、公募による「あさか女と男^{ひと}セミナー企画・運営協力員」と協働して毎年度開催しています。

今年度のテーマ『楽生楽座（らくいきらくざ）～自分らしく生きる～』は、「その場所で、自分らしく自由に生きよう。多様性を認め、自分も相手も受け入れよう」というメッセージを込め、セミナー企画・運営協力員会議で決定しました。また、すべての人の個性が尊重され、共に生きていくことができる社会の実現を目指して取り組みました。

あさか女と男^{ひと}セミナーに参加された方は、セミナー企画・運営協力員によるテーマ選びから始まる企画・運営、魅力的な講師による講演や参加者同士のグループワークなどを通し、自分自身の気づきや他者への理解につながるヒントを得る機会になったのではないのでしょうか。

この報告書が、より多くの市民の方々の目に留まり、男女平等社会の実現に向け、より一層理解を深めていただく一助となれば幸いです。

それいゆぷらざ（朝霞市女性センター）

目次

第1回	6Kライフのススメ	1
	～男性の“会社、子育て、家事、介護、看護、子ども会”～	
	講師 内閣府地域働き方改革推進会議委員 兼務 東レ経営研究所 渥美 由喜 さん	
第2回	ありのままのあなたで大丈夫	3
	～家族できく“いのち”のおはなし～	
	講師 いのちの語り部・作家 青木 千景 さん	
第3回	ジェンダーレス・ファッション	5
	～ぼくのワンピース見つけた～	
	講師 テンポデザイン事務所代表デザイナー 鶴田 能史 さん	
第4回	自分らしく生きられる国、スウェーデン	7
	～男女平等・LGBTQに関するスウェーデンの取り組み～	
	講師 スウェーデン大使館政治経済担当官 アップルヤード 和美 さん スウェーデン大使館広報部広報担当官 セザー エラノア さん	
第5回	“イメージ”はつくられている！？	10
	～テレビやネットの情報を読み解く方法～	
	講師 東海大学文化社会学部広報メディア学科教授 谷岡 理香 さん	
	参加者アンケート集計	12
	ちらし	15
	あさか女と男 ^{ひと} セミナー企画・運営協力員の感想	17

*この報告書は、「あさか女と男^{ひと}セミナー企画・運営協力員」が作成しています。

第1回 6Kライフのススメ

～男性の“会社、子育て、家事、介護、看護、子ども会”～

講師：渥美 由喜（あつみ なおき）さん

★★★ プロフィール ★★★

東京大学法学部政治学科卒業。内閣府 地域働き方改革推進会議 委員(兼務 東レ経営研究所)
2児の父親で、育児休業2回取得。仕事や育児、父親の介護のほか、地元の公園で継続してきた「こども会」のボランティア活動をライフワークにしている。

♥♥♥ 著書等 ♥♥♥

「イクメンで行こう！」日本経済新聞出版社 「ムダとり 時間術」日経文庫ビジュアル
「長いものに巻かれるな！」文藝春秋 「出世は「女性部下」の評判で決まる」PHPビジネス新書 等

第1回目は、「イクメン」の名付け親であり、今から25年前に日本で最も早くワークライフバランスに着目された、ダイバーシティ・ワークライフバランスの第一人者であり、2人のお子さんの育児休業を取得され、また、お父様の介護を实践されてきた経験を持つ方を講師にお迎えし、今の時代の男女が、より協力し合える社会について語っていただきました。



性別役割分担意識である「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という意識は少しずつ変わってきたとはいえ、「世界ジェンダーギャップ指数」(2019年)では、「日本の男女格差は、世界153か国中、過去最も低い121位、G7の中では毎年最下位が定位置である」と報道されました。

開催当日の講師の第一印象は、黒の革ジャンに長髪を頭の後ろで束ねた格好で登場されました。

「えっ!!」と一瞬思ったのですが、これは「ヘッドネーション」といって、病気などが原因で、髪の毛を失った子どもたちに、医療用ウィッグの原料として毛髪を寄付するために伸ばしていると説明されました。外見で判断せず、何ごともよく見てしっかり確認することが大事であると思いました。

体験談では、2006年に第1子を授かったとき、社内で男性第1号の育児休業取得者になりました。育休中は就労時よりも過酷で、最初は職場から取り残された感や、おっぱいを欲しがってむずがる我が子に何もできず落ち込んだそうです。公園デビューも、なかなかママ友の輪に入れず、失敗しながらだんだんなじんでいけたとのことでした。

育休後は、料理も作れるようになり、朝起きたら洗濯物を畳んだり、食器を洗ったりと自然に体が動くようになり、子育てや家事の経験が、仕事に関わる時間管理能力、リスク管理能力、マルチ業務同時遂行能力、コミュニケーション能力等がアップし、育児休業で得たものが好影響を与えるようになったそうです。

2回目の育休時は、お父様の介護とのダブルケ

アだったそうです。大変でしたが、子育ての経験で、親への感謝や尊敬が深まり、何事も受け止めようという気持ちになっていったとのこと。



イクメンとは、自分の子どもだけをかかわるのではなく、地域の子どもたちも気にかける男性のことです。地域のおじさんやおばさん、お兄さん、お姉さんとの関わりが今の子どもたちには必要とのこと。私たちも、家庭人、企業人として、ささやかでも、地域で自分にできることは何かを考えることから始めてみたいと思いました。

最後に渥美先生は、「子ども（の行動）は社会を映す鏡」とおっしゃいました。家庭や社会のひずみから、最も影響を受けるのは弱者である子どもたち。しかし、子どもたちは大きく変わる可能性も持っています。

人それぞれのライフステージがありますが、困難の中でも周りの人に手を差し伸べる覚悟があるかで、周りを照らす輝く人となり、人は救われていくとのこと。損や失敗をするかもしれないが、チャレンジしてみないと何も始まらず、自身が一歩進むと必ず共感してくれる人がいて、その共感がさらに広まっていくことに繋がる。何事も考え、行動してみることが大切であるということが印象的でした。

参加者ひとこと感想

○共感できることが多くあり、興味、関心をもって聴くことができました。世代や境遇、立場、皆それぞれ違いますが、6Kのこともそうですが、人の気持ち、感謝、感動、気づき、マネジメント、ポジティブなどなど、多くの大切なことを改めて考える、振り返る機会を得ることができました。
(50代 男性)

○プライベートな実体験からの話だったので、非常に説得力がありました。男性の立場からの、育児や家事についての考えを聞くことができよかったです。(40代 女性)

○今日は、お話が盛りだくさんで、本当に楽しく拝聴させていただきました。帰ったら主人にも話して共有したいと思います。ありがとうございました。(40代 女性)

○感動的なお話をありがとうございました。実体験からくることばの数々は強く響くものがありました。共感だけが社会を変える、一歩踏み出す勇気の一步の背中をおして下さってありがとうございました。(60代 女性)

第2回 あいのままのあなたで大丈夫

～家族できく“いのち”のおはなし～

講師：青木 千景（あおき ちかげ）さん

★★★プロフィール★★★

いのちの語り部として、幼稚園、保育園、小中学校、行政で年間200本以上の講演をしてきた。子どもから大人まで、自分を大切にできる自己肯定感を底上げしていこうと日々語っている。

♥♥♥著書♥♥♥

「愛をうけとった日」学研パブリッシング 「ひとりじゃないよ」海竜社
「空からの贈りもの」フォトエッセイ（自主出版）

第2回目は、「いのちの語り部」として保育園、幼稚園、小・中学校、高校、行政などで年間200本以上を講演していらっしゃるほか、日本メンタルヘルス協会認定カウンセラーとしても活動されている、青木千景さんを講師にお迎えしました。

今回の講座では、先生がいつも小学4年生ぐらいの子どもたちに話している内容を、説明しながらお話ししてくださいました。

はじめに「みんなは誰から生まれた？」「生まれる前はどこにいた？」など、先生が子どもたちにする問いかけがありました。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、とそのずっと前からたくさんの方が、いのちのバトンをつなげてきて自分がいるというお話でした。

問いかけに対する答えとして、赤ちゃんがお母さんの体の中で十月十日をどのように過ごしているのかを、月を追って説明してくださいました。聴覚が発達する5、6か月の赤ちゃんに、お母さんの声がどんな風に聞こえるのかを、耳を塞いで先生の声を聞くことで体感しました。8か月ごろの赤ちゃんは、教えられたわけでもないのに、子宮の中で指しゃぶりをしておっぱいやミルクを飲む練習をしたり、羊水の汚れを自分できれいにしている天才だとおっしゃっていました。

次に、先生の講座の相棒である赤ちゃんの人形と骨盤と胎盤の模型を使って、赤ちゃんがどのよ

うに生まれてくるのかの説明がありました。赤ちゃんは頭がだ円形で体も平たい形をしているので、お母さんの骨盤の構造に合わせて上手に回転して出てくることなどを、分かりやすくお話してくださいました。赤ちゃんが生まれるときには、お母さんに顔を向けて出てくることが多いことや、出産後胎盤が出るまでしばらく時間がかかるので、お母さんが赤ちゃんを抱きしめられるようにへその緒が長いという説があるというお話もありました。



それから、1人の男の子がお母さんのお腹に宿ってから満1歳を迎えるまでのDVDを見ました。赤ちゃんがお腹の中で育ち、生まれてくる過程を聞いた後だったので、男の子の姿を自分や自分の子どもに重ね、引き込まれていきました。

その後は、少し照明を落としたままでDVDの余

韻を感じながら、先生のお話を聞きました。神聖ローマ帝国のフリードリヒ2世が行った「赤ちゃんに何もしゃべらなかつたら何語で話すのか」という実験の話から、自分たちが今まで生きてこられたのは、物理的に世話をしてもらっただけでなく、必ず誰かの愛情を受けてきたからだということをお話ししてくださいました。



自分の体はとても大事で、水着に隠れるところと唇はプライベートゾーンといい、好きな人でも嫌いな人でも触られて嫌だと感じたら、自分を大切に守るために嫌と言おうということ、自分が自分として生まれてきたのは、250兆分の1という奇跡的な確率だったことをお話ししてくださいました。『奇跡』という詩を朗読してくださいました。先生の優しく温かい声は、自分に語りかけてくれているように感じました。

質疑応答では、参加者が子どもについて感じていること、子どもとのやり取りの中で起きた事柄について、たくさんの質問が上がりました。先生が参加者一人ひとりに寄り添い、親身に答えてくださるのが印象的でした。

講座の最後に、参加者皆で感想を共有しました。それぞれが自分自身のことや自分の子育てについて振り返り、時間いっぱいまでお話が続きました。私も先生のお話を聞き終えた後で感じたことは多く、話しながら涙が止まらなくなっていました。

講座の中で先生が「今、自己肯定感が低いのは結果主義のせいで、どの世代でも生きることがつ

らい時代」とおっしゃっていましたが、この、「いのち」のおはなしを聞くことで、この世に生まれて生きていることがすでに尊いことなのだという事に気付かされました。

いろいろ印象的なお話がありましたが、「子どもは親を選んで生まれてくる。空の上から親の喜怒哀楽、悪い部分もすべてを見た上で、それでもこの親がいいと選んで生まれてきてくれている。だから頑張らなくてそのままがいい」「立派な親になれなくても、子どもを安心させられる親に」というお話が特に心に響き、私自身とても癒されました。この講座で感じた感謝の気持ちを、子どもたちに伝えていきたいと思います。

参加者ひとこと感想

○講師の先生の穏やかな話し方・口調が心に染み入りました。温め不足を意識する(温かい言葉がけや抱きしめるなど)ことの大切さを改めて感じました。(50代 女性)

○今日は感動的なお話を聴講でき、ありがとうございました。命の大切さ、重み、ありのままの自分を受け入れる、肯定してあげる、そんな心の認識度を改めて考えさせていただけました。また、聴講できればと思います。ありがとうございました。(60代 女性)

○赤ちゃんの小ささを改めて見て「こんなに小さかったかな」と思いました。へその緒の長さの意味を聞いて、命の不思議とすばらしさを感じました。今の幸せを大切にしたい気持ちになりました。(50代 女性)

第3回 ジェンダーレス・ファッション

～ぼくのワンピース見つけた～

講師：鶴田 能史 (つるた たかふみ) さん

★★★ プロフィール ★★★

千葉県出身。文化服装学院卒業後、(株)ヒロココシノに入社。コシノヒロコに師事し、コレクションとライセンスビジネスに携わる。その後、子ども服ODM会社でしまむら、西松屋のデザイン企画などを担当。2015年、テンボデザイン事務所設立。東京コレクションをはじめ、多くのファッションショーに参加、プロデュースを手掛ける。

♥♥♥ 受賞歴 ♥♥♥

2015年 ミスブリティッシュエンパイア 上海代表の衣装担当 入賞

2016年 ミスツーリズムワールド 日本と中国代表の衣装担当 衣装部門2位

2016年 レディユニバース 日本代表の衣装担当 衣装部門グランプリ

第3回目は、ファッションブランド“テンボ”の代表デザイナー、鶴田能史さんをお迎えしてお話をうかがいました。

今回のテーマ～ぼくのワンピース見つけた～に合わせ、黒のドット (実は点字) のブラウスに黒のジャケット、デニムのロングスカートと金色のブーツといういでたちで登場された鶴田さん。開口一番「男性、女性、みんな、私どっちだと思いますか?」と質問されました。「この会場に来るまでに、たくさんの人に上から下までなめるように見られたり、視線ロックされたままだったりしました。人は変わったファッションをするだけで、見られるというリスクがあります。男性が女性の服を着る、女性が男性の服を着る、それだけで見られません。社会は変えられないので、自分がどうあるかというところを語りたいと思います。」と始められました。

鶴田さんの服作りは、ご自身のおばあ様が車いす生活をするのを見て、機能性があっておしゃれなブランドがなかったので、おしゃれで機能性のある服を作ろうと思ってスタートしたそうです。そうすると、車いすの人から「こういう服作れま

せんか」、LGBTの人から「胸が大きく見えない服できますか」と声がかかり、いろいろな人のニーズを聞いてそれを自分のブランドのコンセプトにしていくことで成長し、バージョンアップしてきて、今は世の中すべての人へ、年齢、性別、国籍、障害の有無を問わず、みんなが分け隔てなくおしゃれを楽しめる服を発信しています。



鶴田さんは、特にジェンダーレスファッションということ掲げているわけではなく、ジェンダーレスは呼吸するように当たり前という考えなので、ただただかっこよくて美しい服、すっと羽織

れるような和の要素の入った服を作っています。

ファッションから発信する生きやすい社会については、ゼロから変えるのは難しいけれど、変えられるとしたらその末端のところは教育の場だと考えていらっしゃるとのことです。今日のようなファッションでいろいろな所へ行くと、大人はじろじろ見るけれど何にも言わないが、子どもは遠慮なく聞いてくるそうで「なんでそんなかっこうしてるの?」「ねえ、男?」「どっち?」その質問に「男だよ。男だけどうにかっこうしている」とストレートに答えると「へーそうなんだ」で終わるそうです。子どもの率直な質問に率直に答えれば、次からスカートをはいているのを見ても「前にも同じような人いたよ」と偏見がなくなるといいます。子どもたちの素直な質問に大人が率直に答えることが、よりよい社会を作ると鶴田さんは考えています。鶴田さんのファッションショーの場でも、子どもたちはさまざまな疑問を率直に発します。「なんであの子返事しないの?」「なんであの子白いの?外国人?」その質問にこうだからだよと答え、たった一日一緒に過ごすだけで偏見がなくなり、どうしてそうなっているのか知った子どもたちが大人になっていけば・・・



おしゃれは人に決められるものではなく、楽しむもの、束縛を開放するものであってほしいというのが鶴田さんの終わりのことばでした。

参加者ひとこと感想

○講師の方のたどってきた道から、現在のチャレンジ、未来や社会に向けた提言まで、よくまとまったお話でとても触発されました。教育に多様な人々が楽しめるファッションを取り入れると、ダイバーシティ教育も身近になりそうですね。(40代 女性)

○ファッションに対するイメージが変わりました。メッセージ性を組み込み、アピールできる、堅苦しくなく、とっつきやすく、むずかしい問題にもアプローチできるんだなと思いました。ありがとうございました。(40代 女性)

○最初は、ファッション～どんな話になるのかな、～こんなに奥深く、障害者に対して、なんて温かなすばらしい先生かと思いました。人間は、外見で判断してはいけないなと思いました。こんなすばらしいお話をありがとうございました。(70代 女性)

○LGBT理解のため参加したが、そのことを超越し、人権や平和などについても考えている講師に出会え、すばらしい機会となりました。人権や男女平等を正面からとらえることの他、～から考える、～を通してなど、視点を変えることで気づきがあり、そのような場合のほうが、後々、心に残るものと思います。40代～50代の男女に聞いてもらいたいです。(40代 男性)

第4回 自分らしく生きられる国、スウェーデン

～男女平等・LGBTQに関するスウェーデンの取り組み～

講師:アップルヤード 和美 さん

セザー エラノア さん

★★★ プロフィール ★★★

アップルヤード 和美さん: 米国インディアナ大学で国際比較教育学修士号取得。公立学校の教師、大学の非常勤講師などを経て2007年よりスウェーデン大使館勤務。政治経済分野に広くかかわり、要人訪問の対応なども行う。

セザー エラノアさん: スウェーデン出身。2013年、ロンドン大学日本文化および日本語科卒業。2016年にオックスフォード大学日本社会学・政治学科修士号。IT会社や日瑞交流機関の職場に勤め、ホームレスボランティアとしても活動。今年より現職。

♥♥♥ 著書等 ♥♥♥

和美さん: 「あなたの知らない政治家の世界: スウェーデンに学ぶ民主主義」(翻訳) 新評論

エラノアさん: The Japan Times 記事 (2019年3月17日)

第4回目は、スウェーデン大使館の政治経済担当官のアップルヤード和美さんと、広報担当官のセザー エラノアさんを講師としてお迎えしました。

前半は、セザー エラノアさんが『ジェンダーを超えて自分らしく生きられる社会～スウェーデンのセクシャルマイノリティ～』について、後半は、アップルヤード和美さんが『スウェーデンのジェンダー平等～公正な社会をめざして～』について話してくださいました。

『ジェンダーを超えて自分らしく生きられる社会～スウェーデンのセクシャルマイノリティ～』

スウェーデンの憲法では、公権力は、すべての人の平等な価値ならびに個人の自由および尊厳を尊重されなければならないとされています。

1972年に世界で初めて性別変更を合法化して、

同性婚や同性カップルの養子縁組 (2003)、レビアン・ビアンの受精権 (2005) が認められ、2009年に差別禁止法ができて同性婚が合法化され、毎年500人ぐらい同性間の結婚があるとのことでした。



2013年には、世界初のLGBTQの高齢者施設ができ、LGBTQの幼稚園もあります。2017年にはLGBTQを里親として養子縁組も認められました。このようにLGBTQの権利は向上しています。

世論調査でも「LGBTQの同僚・友達・親戚がいる」54%、「同性カップルに養子縁組の権利があると知っている」56%、「同性カップルは異性のカップルと同じように育児ができる」57%と、3項目全て50%を超えています。

ただ、問題点がいくつかあります。「性的指向で差別されたことある」が35%であること、16～25歳の若者の5人に1人が、性的指向を理由に暴力を受けたことがあること、LGBTQの人はうつ病や精神不安定、麻薬中毒に陥る可能性が2倍近くあること、いじめ・脅迫が多いことが挙げられます。

一人ひとりに個性があるのと同じように「性の認識」も人それぞれであり、みんな違って当然なので、お互いを尊重しあい、理解しあって、共に暮らしていきたいというスウェーデンの国の姿勢を知ることができました。

『スウェーデンのジェンダー平等～公正な社会をめざして～』

2014年に政権交代で社民党と環境党の少数与党連立政権が樹立して、世界初のフェミニスト政府が誕生しました。

ジェンダーの平等を人権の問題の基礎と考え、権力と影響力の平等な分配、経済的平等、教育の平等、平等な無償家事労働の分担とケア（育児や介護）、保険・医療の平等、女性に対する男性の暴力をなくすことも目標としています。

2018年の選挙では、349議席のうち161議席が女性で46%、2019年1月の組閣では23人中12人が女性でした。企業の取締役役に女性が占める割合は、2018年では34%となっています。

男性が育児休暇を取得する割合は28%、家事をしてくれる時間も増えているそうです。

男女平等を推進するための重要な改革についての説明では、1921年に女性が普通選挙権と国政レベルで公職につく権利を獲得。1974年に育児給付が導入され、産休にかえて両親双方が取得できる育児休暇を世界で初めて導入。国王の王位継承も性別にかかわらず長子の継承になりました。

次に、差別に対する法律として2009年1月に新差別禁止法が発効され、個人を仕事や通院などでの差別から保護しているということでした。この法律は性別、性自認やそれに関わる表現、民族性、宗教その他の信仰、障害、性的指向や年齢による差別を禁止するものです。

ジェンダー平等がほかの問題から分離されたものではなく、すべての問題に繋がっており、継続的なプロセスであるという考え「ジェンダーメインストリーミング」は、政府の全レベルにおいて、何かを行う時（リソースの配分、規範の創出、意思決定）にジェンダー平等の観点を取り入れることになっています。

ジェンダーによる男女の差別を解消し、個々の能力が生かされ、安全で安心して暮らせる社会を作っていくことが、世界共通の課題であると感じました。



参加者ひとこと感想

○LGBTQに関し、スウェーデンが先進国だと言われているが、まだ半分の人に理解されているだけであって、問題がすべて解消されているわけではないことを知りました。日本においても、ここ数年でメディアやSNS等でLGBTQのことが取り上げられているが、まだまだ、周知、啓発の段階であり、急ぐ必要はないものと確認しました。男女平等についても、少しずついいのでは…。まずは男性が生きづらい世の中になってきましたね。

(40代 男性)

○行政・民間・文化等、さまざまな側面からスウェーデンにおけるLGBTQに関する取り組みを学ぶことができました。一方、スウェーデンにもいまだに解決されていない課題が多く存在することでしたので、世界（国際社会）全体で協力していくべきだと感じました。(20代 女性)



○女性が活躍している国、スウェーデンの政治の沿革を知ること、これから日本がどのように女性の社会進出を進めていけばいいのかヒントになりました。また、性差別、人権についてのディスカッションや政策（法律）が、性差別をなくすことや人権平等を推進する上で、とても影響を与えらることを知ることができ、とても勉強になりました。(40代 女性)

○先進国のスウェーデンでもLGBTQに対する調査の値が思ったより高くないので驚きました。(もちろん日本の3倍以上高いけど) 制度の整備も、もちろん必要ですが、やはり教育に力を入れることが必要と感じました。(50代 男性)

○スウェーデンは、LGBTQについての法制度がしっかりしていることが、社会全体の意識向上につながっていることがよく分かりました。日本もスウェーデンにならって法整備をすればLGBTQへの問題が改善するのではないかと感じました。社会への女性進出についても日本は見習うべきところが多いと思います。今日は他国のジェンダーについて知ることができとても興味深かったです。ありがとうございました。(40代 女性)

第5回 “イメージ” はつくられている！？

～テレビやネットの情報を読み解く方法～

講師：谷岡 理香（たにおか りか） さん

★★★プロフィール★★★

武蔵大学大学院 人文科学研究科社会学専攻。専門領域は、ジェンダーとメディア・音声表現
2001年から東海大学特任講師。現在は東海大学文化社会学部広報メディア学科教授。
一般社団法人「青空朗読」代表理事 日本マス・コミュニケーション学会、国際ジェンダー学会
所属。2016年より厚生労働省社会保障審議会 映像・メディア等部門委員長。

♥♥♥著書♥♥♥

『放送ウーマンのいま 厳しくて面白いこの世界』共著 ドメス出版 『テレビ報道職のワークラ
イフバランス-13局男女30人の聞き取り調査から-』共編著 大月書店 『ラジオは真実を報道で
きるか 市民が支える「ラジオフォーラム」の挑戦』共著 大月書店

令和元年度「あさか女と男セミナー」の最後を飾っていただいたのは、東海大学文化社会学部広報メディア学科教授で、元アナウンサーでもある谷岡理香さんでした。

テーマは情報の多様化が進む現在、大量に作り出されているメディア…特に、テレビやネットの情報をどう受け止めていくかということ。



ジェンダーに関係する最近の主な出来事として、財務省事務次官による、テレビ局記者へのセクシャルハラスメント事件にまつわる財務大臣の「セクハラ罪という罪はない」という発言、東京医科大学の女子学生を入試段階で差別していた事件、

父親からの性的虐待裁判において、名古屋地裁が「被害者が抵抗不能とはいえない」という理由で出した無罪判決などがありました。そのことをメディアはどう伝えたかという話を皮切りに、メディアが作ってきた「男女像」についての興味深い分析があり、参加者も皆うなずいていました。

子ども番組でも、主役には男子が多いという話から、戦隊ものなど、習慣的に見る子ども番組から受ける意識形成……男性ヒーローは強く、女性主人公は美人で従順という形が、90年代に入ると「セーラームーン」など、女性が活躍するバトルものなどが生まれてきた流れ、さらには「ラスト・フレンズ」や「3年B組金八先生」などで、LGBT…性同一性障害を正面から取り上げるドラマが出てきたことで意識が変わり、2003年の性同一性障害特例法成立へ影響を及ぼした可能性についても言及されていました。

このように、メディアが生み出す男女像が与える影響、そしてそれをしっかりと意識して受け止めることの大切さ、ふだん何気なく見ているCMなどからも、考えるべき事象がたくさん隠されているということで、これからのメディアとのつきあい方を、視聴者である私たちも考えていきたい

と感じました。

後半にはグループワークとして、紙おむつのCMを4本見て、そこから伝わってくる子育て、家事に対するアプローチ方法の差を参加者みんなで話し合うという時間がありました。特に正解があるわけではなく、他者の感想を聞いて、自分との意見や視点の違いを感じたり、共感したりと、学んだことが多かったと思います。



メディアが出すメッセージには作り手の価値観……時にはバイアスがかかっており、それを鵜呑みにするのではなく、誰のどういう意思や思惑や価値観で出されているのかを考え、また自分の自分らしさを意識するとともに、他者の他者らしさも認めて、多様性を認め合う社会をつくるのが、これから大切になっていくでしょう。



参加者ひとこと感想

○すばらしい内容でした。とても聞きやすく、わかりやすかったです。思い込みに気づき、「意識」を変えると見える世界が変わり、もっと生きやすくなると確信しました。(50代 女性)

○いろいろと考えることができ、他の人のいろいろな意見を聞いて、ふだんあまり考えなかったことを自分なりに改めて考える機会になりました。(10代 男性)

○時代は進み、人の考えから、政治、経済が刻々と変わり、それを受け入れる状況も大事だと思ったかも？(70代 男性)

○話が楽しく、とても勉強になりました。メディアの力、何気なく見ていたものに左右されている、普通と当たり前が変わっていくことを改めて考えます。(50代 女性)

○先生のとてもなめらかなお話、引き込まれてしまいました。ニュースやメッセージを読み解く、他者や違う意見も認め、その上で自分らしく生きる。なにげなくメディアなどに接して生きていく日々、意識をしていきたいと思いました。(50代 女性)

令和元年度あさか女と男セミナー

連続講座 楽生楽座～自分らしく生きる～

参加者アンケート集計

1. あなたの性別・年代を教えてください。

	女性	男性	選択しない
第1回	10名	6名	0名
第2回	14名	3名	2名
第3回	21名	4名	2名
第4回	21名	3名	1名
第5回	10名	5名	1名
計	76名	21名	6名

【記載なしあり】

	70代以上	60代	50代	40代	30代	20代	10代
第1回	2名	2名	6名	5名	0名	1名	0名
第2回	3名	3名	6名	5名	1名	0名	1名
第3回	2名	1名	7名	13名	3名	1名	0名
第4回	4名	3名	6名	8名	1名	2名	0名
第5回	4名	0名	9名	1名	1名	0名	1名
計	15名	9名	34名	32名	6名	4名	2名

【記載なしあり】

2. このセミナーを何で知りましたか？

	広報	ちらし・ポスター	ホームページ	Facebook	友人等からの声かけ	市の職員から	その他
第1回	2名	3名	1名	0名	2名	4名	4名
第2回	4名	3名	1名	0名	5名	6名	2名
第3回	4名	4名	0名	4名	7名	8名	1名
第4回	5名	4名	1名	1名	4名	7名	3名
第5回	5名	4名	0名	0名	2名	4名	1名

【複数回答あり】

3. なぜ、セミナーに参加しようと思いましたか？

- ①テーマ・内容に興味があったから
- ②講師に興味があったから
- ③以前にも参加したことがあったから
- ④その他

	①	②	③	その他
第1回	11名	6名	0名	1名
第2回	17名	4名	17名	1名
第3回	18名	13名	3名	3名
第4回	22名	8名	1名	3名
第5回	12名	0名	0名	4名

【複数回答あり】

4. 参加しやすい日時はいつですか？

	午前	午後	夜間
平日	19名	4名	4名
土・日	23名	7名	3名

【複数回答あり】

5. セミナーを開催する季節はいつがよいですか？

春(3~6月)	夏(7~9月)	秋(10月~12月)	冬(1~3月)	いつでもいい
0名	3名	11名	2名	23名

【複数回答あり】

6. 今後、このセミナーで取り上げてもらいたいテーマはありますか？

- ・男性学
- ・子育てママに役立つテーマ
- ・ハラスメントについて
- ・LGBT
- ・老後の生き方 余生について
- ・ワークショップ型セミナー
- ・高齢者と子どもたちとの共存するよりよい環境を作る
- ・社会的に普通である言葉の概念の趣向について
- ・教育現場での男女平等の扱い方や、教材の中でジェンダーレスをどう取り上げているかを知りたい。
- ・女性活躍法に基づく取り組みについて

7. このセミナーに参加して、ご自身の中での変化や気づきはありましたか？

① ある	② ない	③ わからない
22名	0名	12名

「① ある」と答えた方

- ・思い込みが自分を厳しく（苦しく）していると感じた。
- ・男女平等、LGBTQなどの理解が深まった。
- ・視点を变えるだけで、物事の見方も変わっている自分がいたと再認識しました。
- ・自分は自分でよい。他者のことを認めることなど。
- ・男女平等は、それぞれが意識して社会全体を変えていかなければならないと日頃意識しています。
- ・他国を知って自国を考える。
- ・思考やビジネスにも取り入れたらおもしろいと思いました。
- ・知らない世界を知ることができ、新たな興味を持てました。
- ・いろいろな角度から、先入観なしに物を見るのが大切だと感じました。
- ・言葉の大変さ。自分をもっと認めてほめてあげようと思いました。
- ・家族への声掛け、スキンシップを見直したいです。

◇令和元年度 ^{ひと}あさか女と男^{ひと}セミナー参加者人数◇

	テーマ	参加者人数
第1回	6Kライフのススメ ～男性の“会社、子育て、家事、介護、看護、子ども会”～	21名
第2回	ありのままのあなたで大丈夫 ～家族できく“いのち”のおはなし～	23名
第3回	ジェンダーレス・ファッション ～ぼくのワンピース見つけた～	35名
第4回	自分らしく生きられる国、スウェーデン ～男女平等・LGBTQに関するスウェーデンの取り組み～	32名
第5回	“イメージ”はつくられている!? ～テレビやネットの情報を読み解く方法～	21名
計		132名

らく いき らく げ 楽 生 楽 座

～自分らしく生きる～

● 無料

● 保育あり

● 手話通訳あり

第1回 10/19(土) 午前10時～正午

6 K ライフのススメ
～男性の“会社、子育て、家事、介護、看護、子ども会”～

“イクメン”から“介男子”まで……。講師の実体験をもとに、これからの時代の男性のワークライフバランス、男女がより協力し合える社会について考えましょう。

あつみ なおき
講師：渥美 由喜 さん
(内閣府地域働き方改革推進会議委員
(兼務 東し経営研究所))

第4回 11/6(水) 午前10時～正午

自分らしく生きられる国、スウェーデン

～男女平等・LGBTQに関するスウェーデンの取り組み～

国会議員の約半数は女性！男女平等先進国、スウェーデンの取り組みとは？海外の政策をヒントに、これからの日本を考えてみましょう。

かずみ
講師：アップルヤード 和美 さん
(スウェーデン大使館政治経済担当官)
セザー エラノア さん
(スウェーデン大使館広報部広報担当官)

第2回 10/26(土) 午前10時～正午

ありのままのあなたで大丈夫
～家族できく“いのち”のおはなし～

あなたのことを想っている人はたくさんいます。いのちの大切さを知ると、自分のいのちも愛おしくなります。講師の温かな語り口に、みんなで癒されましょう。

あおき ちかけ
講師：青木 千景 さん
(いのちの語り部・作家)

第5回 11/9(土) 午前10時～正午

“イメージ”はつくられている！？
～テレビやネットの情報を読み解く方法～

「男は強く、女は優しく」など……。メディアの情報により、気づかぬ間に固定観念にとらわれていませんか？他人の意見に左右されず、「自分で考える力」を身につけましょう。

たにおか りか
講師：谷岡 理香 さん
(東海大学文化社会学部広報メディア学科教授)

第3回 10/30(水) 午前10時～正午

ジェンダーレス・ファッション
～ぼくのワンピース見つけた～

「みんなが分け隔てなくオシャレを楽しめる服」とは？性別や体型等に縛られないこれからの時代のファッションから、誰もが生きやすい社会について考えましょう。

つるた たかふみ
講師：鶴田 能史 さん
(テンポデザイン事務所代表デザイナー)

会場

朝霞市中央公民館・
コミュニティセンター 集会室



※申込方法等については、裏面参照

令和元年度 あさか女と男セミナー 講師プロフィール

第1回 ^{あつみ なおき} 渥美 由喜さん

25年前、日本で最も早くワークライフバランスに着目した、ダイバーシティ、ワークライフバランス分野の第一人者。プライベートでは2回の育児休業を取得し、仕事や育児、父親の介護に奮闘。

第2回 ^{あおき ちかげ} 青木 千景さん

いのちの語り部として、幼稚園、保育園、小中学校、行政など年間200本以上の講演実績あり。子どもから大人まで、自分を大切にできる自己肯定感を底上げしていきたいという思いで活動している。

第3回 ^{つるた たかふみ} 鶴田 能史さん

文化服装学院を卒業後、アパレル企業勤務、短大・専門学校の講師等を経て、2015年テンボデザイン事務所を設立。「年齢、国籍、性別、障害の有無を問わず全ての人が笑顔になれる服」というコンセプトで、多数のファッションショーに参加。

第4回 ^{かずみ} アップルヤード 和美さん

米国インディアナ大学で国際比較教育学修士号取得。公立学校の教師、大学の非常勤講師などを経て2007年よりスウェーデン大使館勤務。政治経済分野に広くかかわり、要人訪問の対応なども行う。環境分野も担当。

セザー エラノアさん

スウェーデン出身。2013年ロンドン大学日本文化および日本語科卒業。2016年オックスフォード大学日本社会学・政治学科修士号。IT会社や日瑞交流機関の職場につとめ、ホームレスボランティアとしても活動。

第5回 ^{たにおか りか} 谷岡 理香さん

テレビ高知報道部アナウンサー、フリーアナウンサーを経て、2001年より東海大学教員。専門領域は、ジェンダーとメディア・音声表現。2013年より厚生労働省社会保障審議会委員（映像・メディア等部門委員長）。

申込方法／10月1日(火)午前9時から電話、FAX、メールまたは市ホームページの申し込みフォームで保育／満1歳～未就学児・各回12人まで(要予約) ※お子さん1人につき1講座500円の保険代を申込時に持参

※保育・手話通訳を希望される方は、各開催日の10日前までにお申し込みください。

申込書

下記項目を記入して、このままFAXで送信してください。(FAX:048-463-0524)
メールの場合は、本文に下記項目を入力してください。(Mail:soreiyu@city.asaka.lg.jp)

ふりがな			年代	
お名前				代
ご住所	〒	—	電話番号	

※参加希望の講座を○で囲んでください。保育・手話通訳の希望があれば、□に✓を入れてください。

第1回 10/19(土)	第2回 10/26(土)	第3回 10/30(水)	第4回 11/6(水)	第5回 11/9(土)
<input type="checkbox"/> 保育希望 (名)				
<input type="checkbox"/> 手話通訳希望				

ふりがな		性別		平成	年	月	日	生まれ
保育児お名前			年齢		歳		ヶ月	
※年齢は、講座実施日現在								
ふりがな		性別		平成	年	月	日	生まれ
保育児お名前			年齢		歳		ヶ月	
※年齢は、講座実施日現在								

お申込み
お問い合わせ

【それいゆぷらざ 女性センター】※開所日：火～日曜日 午前9時～午後5時
朝霞市青葉台1-7-1 (中央公民館・コミュニティセンター内)
電話：048-463-2697 FAX：048-463-0524
Eメール：soreiyu@city.asaka.lg.jp

申し込みフォーム
はこちらから



あさか^{ひと}と^{ひと}男セミナー企画・運営協力員感想

泉 敦子

今回、男と女セミナーの企画に参加し、協力員の皆さんと企画会議の回を重ねることにいろいろな意見が出てわくわくしました。わくわくしながら新しいことも学ぶことができ、楽しい数か月でした。みなさんありがとうございました。

小高 育子

去年に引き続き2年目でしたが、講座で取り上げるものも全く違っていたので、新鮮な気持ちで取り組むことができました。協力員をやっていなければ、知ることもなかったであろうテーマに出会い、知識を増やす機会となりました。新しい協力員の方々が、人生経験が豊富であったり、いろんな事に携わっていたりと、非常に勉強にもなりました。ありがとうございました。

渋沢 敏光

くしくも、第1回開催日の10月19日は、10（父さん）、19（育休）の語呂合わせで、「イクメンの日」とされている日でした。新語・流行語大賞のトップ10入りしてから約10年。「男は仕事」という意識が、まだまだ社会に根強い中、「父親の子育て」をより日常の風景にしていくために、何ができるかを、改めてセミナー参加者の皆さんと考える機会になりました。

羽山 大輔

今回、このような活動に初めて参加させていただき、自分もメディアに携わる仕事をしている関係から、さまざまな見識を深められたことを大変うれしく、ありがたく思っています。これからも機会があれば、積極的に地域活動に関わっていきたいと思いました。

山田 千絵

今回、知人に紹介されてこの企画・運営協力員の仕事に初めて携わらせていただきました。企画会議で協力員の皆さんと話し合う中で、改めてジェンダーや多様性について深く考えることができました。小さい子どもがいるのでふだんセミナーに参加する機会は少ないのですが、協力員になったことでたくさんさんの講座を聞くことができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。

令和元年度

ひと ひと
あさか女と男セミナー報告書

発行年月 令和2年3月

発行 朝霞市

編集  朝霞市女性センター
それいゆぷらざ

〒351-0016 埼玉県朝霞市青葉台1丁目7番1号

電話 048-463-2697

FAX 048-463-0524

E-mail soreiyu@city.asaka.lg.jp